（十日夕刊）

休刊　大祭日　第一　第三日曜

定價　一ケ月　二十錢　郵税　五錢
　　一ケ月　六十錢　郵税　十五錢

廣告料　並行六十錢　指定廿錢　特

發行兼編輯人　藤沼　鎮
福島縣平町田町十六番地
發行所　磐城新聞社
電話五六四番

平の映畫界（毎七曜日掲載）

シナリオ

假題「襖はくさい」（一）

司馬　英兒

1、羅城門の處々丹塗のはげた大きな圓柱に蟋蟀が一匹とまつてゐる（大寫）

2、遠景――雨の降つて居る中の羅城門の全景

3、前景から次第に移動にて羅城門の下に雨をさけて居る、みすぼらしい、山吹の汗衫に重ねた紺の襖の肩を高かめた若者が數段ある石段の中程に腰を下してぼんやり雨のふりをながめて居る全身を入れてとまる（溶暗）

4、羅城門から見た、若者の後姿と雨にけぶる末雀大路（溶暗）

5、左の一頰のにきびを氣にする樣に左手で、いじりながら、ぼんやり雨の音を聞いて居る若者（大寫）（Wつて）

6、石垣の根に落ちる雨滴（大寫）Wつて）

7、ふと見上げる若者の横顔（大寫）（カメラは若者の目になつて門の屋根が斜に突き出た、瓦の先と重くるしい暗い雲を入れる、又

虐に流れて大きな嘆をする若者の横顔

8、大儀そうに立上つて柱の方へ行く若者その足元を二三枚の落葉が、風に吹かれて雨の中へ

9、夕冷えに頸をちゞめて身ぶるいする若者

10、門の柱と柱の間夕闇がせまつて來る（この次から次第に暗色を強める）

11、若者が急に影を柱の中にひそめる若者の視線をたゞてカメラは石段の方へ

12、ひげむちやな男と片目の男が人目をはばかる樣な目付で、雨にぬれた髪の毛を氣にしながら、門の樓上に出る、丹塗の梯子段の下で立とまる

13、ひげむちやな男の横顔、片目の男に無言の儘門の上をゆびさす（大寫）

14、片目の男の見上る顔（大寫）

カメラ動いて暗色には（きりしない門の天上裏を入れる（溶暗）

15、重たそうな箱を持つて片目の男が先になつて、梯子段を上つて行く、

16、梯子段をたそるくのぼつてくる片目の男（上から）

17、上り澁りながらふりむく片目の男、憶病な目付で後の將むちやな男を見る（下から）

18、將むちやな男、目早く上れと合圖する（溶暗）

19、柱の側でこの男の動靜を見てゐる若者（Wつて）

20、若者の横顔（大寫）

21、梯子段を上り切つた二人の男（下から）

22、はしらによりかゝつて居る若者、何か考へ込んで居る

23、財布を取り出す若者

24、財布へ手を入れて中をさぐる、三枚の通錢を出して見る（大寫）

25、急に財布をしまい込む、若者はしらの影へ入る

26、二人の男梯子段を下りて來る、ほっとした樣な片目と將むちやな男の顔次第に近づく

そしてカメラの右外へ

27、暗くなつた雨の中に走り行く二人の男の後姿（初め移動にて石段まで追ひ後は固定）――（溶暗）

今の帝キネを見て

マサヲ・ハセガワ

今の帝キネは丁度復興國ドイツの觀がある。ドイツはあらゆる方面に於いて產業の合理化をやつてゐる。帝キネは俳優の入社せしめる事に努力をしてゐる。

草間實、と村節子、德川良子、團德麿等が入社したし、それに日活の中野英治英百合子等が入ると云ふ。

× × ×

東京市の常磐座なぞは本社直營となり、長瀨撮影所の唄も出來、ヌタデオ内の映畫は「長瀨の一日」と題して封切されて居る。

× × ×

鈴木監督の作品「何が彼女を……」や「踊る幻影」それから高見監督の作品「都會双曲線」等が續々發表され、目に見えて現代物に力瘤を入れてゐるのは非常によろこばしい。

× × ×

百々之助の獨立第一回映畫「劍戟より生れた金色夜叉」は百々之助の貫一、久野あかねのお宮の配役で作成配給は帝キネ何んと變体性の映畫ぢやありませんか

× × ×

「淀君」（三上於菟吉原作）は撮影開始となつた、監督は長尾史錄、主役淀君は松竹座ガクゲキ部から引拔かれた香椎園子が扮する、その他前掲の新入社の草間や園が出演する。

× × ×

「たゝ、これはよく寢たと思ふ、やがて參の。物は程よくすべきだ。獨りよがりでは誰も考になつてくる、詰らぬ。ひでも、それが貴い經驗と賞めぬ、我が聲は大きく聞なつて身につくから不思議だ。

□

あの人が何うして斯うして、他のアラ拾ひに忙がしい人があるが、人のことは我がこと、明日にも泣く樣な運命がくるかも知れない無暗なことは言へるもんぢやない。

□

我が世間觀

平二・谷口生

二二が四が當然なのに、實は二二が六にもナにもなることあるのに驚く。失敗した人を思ふと、やがて參考になつてくる、詰らぬ。ひでも、それが貴い經驗と賞めぬ、我が聲は大きく聞なつて身につくから不思議だ。

□

あの人が何うして斯うして、他のアラ拾ひに忙がしい人があるが、人のことは我がこと、明日にも泣く樣な運命がくるかも知れない無暗なことは言へるもんぢやない。

□

活は面白い、浪花節は好きだ、其れもよからう。夢中になるのは偏つて。物は程よくすべきだ。獨りよがりでは誰も考になつてくる、詰らぬ。ひでも、それが貴い經驗と賞めぬ、我が聲は大きく聞なつて身につくから不思議だ。

□

肉食は何ものの、夜遊びしては何ものの、宗教は八百萬の精神が荒んでゐるのだ。

□

藝者に盛んに踊らせて、バカ騒ぎをすれば一時清々すると言ふが、其れが。何んとかしないではと。あせつてるが大衆の聲だ。

□

何うせ成るやうにしか成らない、勝手にしろでは捨飯を食はして貰つてる營業所なのだから、强く出ぬが本當だらう、幸ひケリがついて、温厚な現所長の就任を見、一段落の形であるが、一段落の形であるが、後とも仲良くして貰ひたい。たまに雨ふりのも止むを得ぬが成べくなら晴天で平和に暮す方が浮世の愉快だ。而し道德は品行方正、嘘つかず眞直と教へる。

□

金の問題なのだ、バカでも旦那と言はれんだからと。りこうまで馬鹿になつて尻を追ふ。素人娘の尻を追へば目玉だが、金儲けには手段を選ばず、しか食へ。觀音ま　定めこむ人がある。あまの尻の話は結構でない。成功者は十人に一人も居ない。現狀では同情に値する。

これだけ世智辛いので現內閣の緊縮策も賞れるわけだ。あっが、あまり利きすぎて。米も買へないぢやないか。平和は暮す方が浮世の愉快。あせつてるが大衆の聲だ。

□

景氣ぢやと口說く人が居るかも知れぬが、縮まつて何も出來ないよりは、元氣だして一夕の交情を温め、切り上げよく退却すれば、能率も上がるかも知れない。

□

ささどろ電氣會社と平町の喧嘩で胸くそを惡くしたが、勝負あつた樣だ。どちらにも言ひ分がある、勝手に言つちや限りはない。而し物には順序があり動かすこと出來ぬ道理もある。まあ平町は顧客、電氣會社は所なのだから、强く出ぬが本當だらう、幸ひケリがついて、温厚な現所長の就任を見、一段落の形であるが、後とも仲良くして貰ひたい。たまに雨ふりのも止むを得ぬが成べくなら晴天で平和に暮す方が浮世の愉快だ。

□

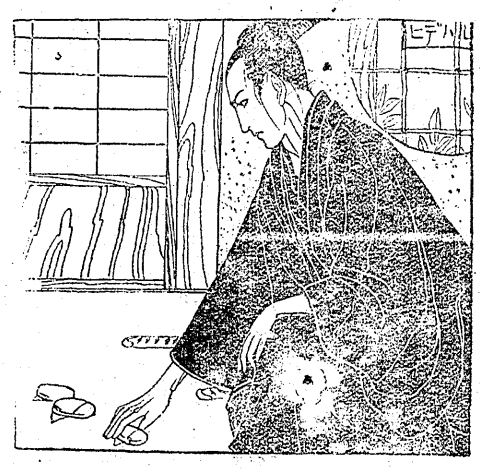
幕末奇談　高山彦九郎（132）

中西洋々作
市施長春畫

講談

素走りの助六（三）

その翌朝のことでありました。宿屋の一室に夜を明かした彦九郎は、障子をもれる朝日影にやはらかく起



まを仰せらるゝげ承知「こちら樣のに宿料の方は致候、御名前はつとに勤もう頂戴してございますんですが……」と意外なこと王どやらの御武家さまを云ひ出しました承ばり居り候故、尙々此身の罪が恐しく、そのつぐのひの萬一にもとこの金子調達致し候次第に候かく申し上げ候へば、かならずや不淨の財ならんと思召され候はんも、實は私實家の母に行き候て事情すべてをうちあけ拜借いたし候ものに候へば何卒御懸念なく御使用下されたく、次に御面會の節は必ず善人の委にて、御目もじいたすべく、右御誓ひ申し上候

かなまじりのはなはだ讀み難きものでございますが、わたくし必をたくみとり下され度、先は右まで

すばしりの助六

しのばせ置きましては、さぞかし不審に思召されれ候はんも、實は、私ことは昨日のすりに御座候、旦那さまにさとしのた言葉、思ひだすにつけてもこの身の今日までの罪が恐しく、殊にはあのようにかけ下されまして、今更ながらにはつかしく相成候。せめて今一度お目もに申し不必得のほど幾重にもおわび申し上げ度候も、旦那さまに許し下されまじく思ひ候まゝ、失れいをかへりみず、こ急食事をもつて來てくれ、の手紙しのばせ申し候次第に候。些少ながら金子同封いたし置き候まゝ、なにとぞ御役にた立て下され度、唯今、帳場に行つて居ります候で、宿帳を拜見いたし候ところ、高山彦九郎

勤王の高山さま

「たゝ、見上げた奴だ」それをよみ終つて彦九郎は會心らしく莞爾と打ち笑みました

「は、これはた目ざめで……」

そのときさう云ひながら入つて來たのはこの宿の番頭でした

「たゝ、これは番頭か」

彦九郎は心の愉快を顏に出しもうしました

「今日は早朝に旅立つ筈のところ意外の寢すごしをしてしもうた。濟まんが、至急食事をもつて來てくれ、それから勘定書をな」

「へえ、唯今運ばせますで。ムいます」と番頭はもみ手をしながらしばらくためらうしてしもうた。

「しかし、旦那さま」

滋養劑の覇王
マルケイ　ヴイタミンに限然
平五　山野邊藥局

診療
夜間
胃腸　梅毒
內科　十二指腸虫病　專門部
淋病　婦人病　皮膚病　專門部
外科
松村胃腸病科醫院
（平南町電話一〇七番）

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科、小兒科、外科、花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科、

貸切は昭和タク
高級車グラハムペーヂ
乘心地のよい事は請合
是非一度だけ御試乘を
昭和タクシー
電話三四三

酒ブドー蜂
美酒　禮讚
醫藥のため　藥酒のため　一ツ飲食品
おいしくて　滋養になる　ブドー酒
製造元　近藤利兵衛商店
4—213

內科診療
消化器病科　呼吸器科
小兒內科　一般內科
入院應需（自炊ノ便アリ）
平町風坂
渡邊內科醫院
電話一六一番

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり葉書なり社員が伺ひし詳しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話六〇三番　五四一番

平町紺屋町
吉田眼科病院
募集。看護婦（資格者）

新入學期と時計
時計は大谷
器械部戰線異狀なし
憂良なる器械で安く
殊に學生は元價提供
平三　大谷時計病院
電話十九番

新川町の通路を擴張の陳情

町の片側を引込ませて 急速實現は困難

平町新川町白土庄助氏外三十一名が平、江名間の縣道中新川町地内が道路狹隘で通行に危險だからこれを擴張して貰ひたいと平町より縣に陳情して呉れと諸願した件は土木委員會で調査中であつた同所は自動車、馬車の交通極めて頻繁であつて殊に新川町役場間の新道の二分の一もなく當然擴張すべきものであると意見が纏まつたので、今明中に縣に對し正式に陳情と決定した此の案は二三年前よりの地元の希望であるが新川町の片側を縣道敷部移轉させ土地を買收せねばならぬで縣の財政が之れを許すや否や只今のところ極めて疑問視されてゐる

平署に衣類の 貰入證明願

不審男取調中

八日午後八時磐平署に現れた一見浮浪人風の男 自稱磐城郡内郷出身洋服商と称し夢んでゐるが平方面に集合に來たところ不景氣で金がなくちやうど帰宅の旅費が無いから衣類の入質證明をして貰ひたいと願出たが挙動に不審

石城麥作況 平年作

九日縣に報告

縣農事試驗場石城分場の立夏日に於ける麥作況は九日郡に報告あつたそれによると春分(三月二十一日)當時より天候例年に比し温暖にしてかつ雨量多かつた爲の草たけは例年に比し伸長著しきもの樂觀く特に晩播たしきもの樂觀く特に晩播されてゐる

一戸六十七錢ほど 平町で負擔輕減

教育費增額案が通れば

石城郡各町村では今議會の花形教育費増額案がスルとなるので早くも實現を期待し、一戸六十七錢の割で本年度算用に餘念がない、平町は年度算額の七割に當るものの一ツでソロバンを弾き出掛に入つてゐる

時計を窃取

今朝次郎捕はる

石城郡内郷村大字宮本竹藤四十八圓の増額となりこれを全部負擔輕減に振向ける

磐城日熱化せる家調選擧の情勢

平町は遂ひに定員超過 平均得票は七十票内外か 猛烈な今夜の襲撃戰

平町の家調選擧は愈々明日に迫つた、十日正午まで決定せる立候補者は別項の如く十六名に達し既に一名の定員超過を示し更らに一二名の立候補者ある見込みである、十日朝までの狀勢は立候補十五名にして各候補ともホツト一ト息の態であつたが正午に至つて五丁目より井上茂作氏の立馬確定を傳へられるや各候補者は俄かに緊張し運動員の巨別訪問其の他の方法により躍起猛運動を開始し漸く選挙氣分が横溢して來た、而して

平町の有權者は千四百七十二名のうち失格、棄權申記諸氏を除くほかは殆ど控除し千二百票内外の投票と見て之れを十六候補に割れば平均七十余票に相當してゐる

現在某方面の觀側による各候補の勢力を見ると

前澤文太郎、堀江正茂、井上茂作、馬目玉彌、櫛田榮太郎、吉村安次郎、齋藤寅吉

等の諸氏優勢を傳へられ殆ひど當選確實と見られてゐる、而して十六候補のうち十二名の立候補者ある見込みで

平町の家調選擧の候補者は各町内とも大体一二名づゝの立候補に反對された關係等もあり某方面に目下湯治中在中にある外白銀町の荒木忠夫、松永友太郎の兩氏が地盤を喰ひ合つてゐる關係から

此の三氏が最も苦戰を傳へられてゐるが比較的開放されてゐる此の選擧のことと如何なる番狂はせがないとも豫想されず今や全く白熱化してゐる

幾多の事情を排し 井上氏が出馬

熱心な有志の推薦

平町家調選擧の候補者は各町内とも大体一二名づゝの

特別議會のぞ記

東京にて 吉田生

特別議會も衆議院は峠を越して興味の中心は貴院に移つた、此日貴院は例に依つて午前十時の開會、池田長康勅二政府は豫算案に對する審議權無視し、地方自治を蹂躙したことは默視出來ない』と首相に迫り輔弼職菊地今朝次郎(三四)の所爲と判明八日平署に檢擧された

池田男首相の答辯は尚纏まらるものがあり「政府はもう少し研究されては如何」と答辯はこれを打切る、此時靜粛たつた議場も一時に哄笑を爆發す、池田君ハツと赤面「只今答辯と申したのは質問を誤りです」と取消す、二日前六時頃クローム時計一個(價格七圓)を窃取した犯人は茨城縣茨城郡富盤村生れ

次郎方から去る三月一日午

四倉港の 調査終る

板谷技手一行歸る

四倉漁港調査のため去る五日來倉中なりし本縣土木課係調査が終了し九日歸縣した

馬匹人工授精

石城產馬組合で

石城產馬畜產組合では十五日七日、二十二日の三日間に亘りと遠野村種付場において馬の人工授精を執行する事と決定、種牡馬はバイヤール號であるが希望ドウル號種も授精すると

小賣屋は値下げし 卸商は値上 平町の凍氷相場

平町の氷小賣商組合では二割の値下げを斷行することになつたがこれは反對に氷の卸賣商組合では昨年より値下げをすることになつた、即ち昨年は一貫匁七錢から八錢に卸されたのが今年は十錢から十五錢と言ふ高値に決つた これは昨年卸賣の大競爭を演じ平潟氷會社と魚市商店とがとう〳〵何時の間にか妥協して仕舞つた結果である これがため小賣商人は昨年の經

銅像除幕式

中田政吉氏の

江名町新漁業組合長中田政吉氏の銅像除幕式は九日午前十時より同町鮫港埋立地に於て挙行した、定刻漁業組合長佐藤德太郎氏の挙式の辭に次ぎ小名川神官の修祓あり中田氏令孫により除幕、加澤一造氏の式辭並に土事報告あり飛塚水產試驗場長の祝辭鈴木縣會議員の祝電中田政吉氏の謝辭あり式を閉じ終つて組合樓上に於て宴會を開いた

鐵道員だと稱し 釣錢を强奪逃走

神谷村の鈴木甚一郎

石城郡神谷村上神谷鈴木甚一郎(三四)は八日午後七時頃鐵道員を偽り平町四丁目鶴屋洋服店に三輪石鹸三ダースを電話で注文し二十圓紙幣を持つて來へ釣錢を持つて同店番頭を待ち受け十八圓餘を强奪

平署に捕はる

酌婦の痛た事

四倉町字仲町飲食店森芳屋方抱酌婦大渡クニ(三五)は去る八日午前一時頃密淫賣せる事發覺八日より五日間の拘留に處せられた

津田視學來倉

石城郡擔任縣視學津田達造氏は九日四倉尋常高等小學校を巡察した

四倉消防協議

四倉樓上に於て九日午後九時より同町消防組幹部會を開催した

熊田氏が寄附

四倉町字本町熊田八十氏は嚴父午治死亡に付遺志により小學校基本財産に五十圓、消防組に三十圓、青年團に二十圓を寄附せられた

時言

平の家屋税調査委員選擧いよ〳〵白熱化

□

た氣の毒に一人だけ、貧乏籤は誰れが抽くだろう

□

當選する者が強いのではなくて、落ちる方が弱はすぎるんだ

□

新川町道路擴張の陳情出る、出來れば結構だが節の物ではない

□

電話をかけて釣り錢詐欺の失敗、流行る手だが古る過ぎる

家屋税調査委員候補者として 堀江正茂君を 推薦す

推薦者 佐々木龍若 平町字四軒町一八番地

家屋税調査委員候補者氏名

材木町 櫛田榮太郎
紺屋町 米穀商 馬目玉彌
新川町 材木商 長 小次郎
鍛冶町 金貸業 堀江正茂
自轉車業 野崎滿藏
才槌小路 請負業 前澤文太郎
鍾田町 業 鈴木光吉
久保町 醸造業 會川延太郎
八幡小路 無 業 鍋田三重
立町 建 具 荒川淺次郎
白銀町 湯屋 荒木忠夫
田町 藝者屋 鈴木重助
南町 足袋屋 齊藤寅吉
白銀町 足袋屋 松永友太郎
五丁目 會社員 井上茂作
古研町 屋 吉村安次郎

磐城炭礦。最優等炭

◎石炭 正味十貫目 一俵金六十錢

東京瓦斯コークス一等

◎コークス 一俵金一圓也

木炭代用。無煙無臭。家庭用炭

◎玉炭 一箱金貳圓也

石炭ハ目方ノ正確ヲ期スル爲メ正味十貫目ヲ俵ノ標準ト定メマシタ

配達迅速〔電話二三七番〕

磐城炭礦販賣總代理店

阿部石炭商店

生花教授

池ノ坊流 生花を繼切町學に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。

平町五丁目十六番地

須藤まつの

一圓十錢のフランス マルソー會社元詰

マルソー、ブランク マルソー、ルージ 生葡萄酒

優良にして安價賣行き飛ぶが如し

平二 西村屋藥舗 にはなし 三番

奉夏向の 小供洋服生地を

新柄レース 一寸巾から二尺巾まで

澤山入荷致しました

婦人手芸材料

ハシモトヤ糸店

平町田町